

# 民生常任委員会

富山市での行政視察を通じての

## 提言書

1. カラス対策について
2. 新体育館整備について

平成30年12月14日

## 2. 新体育館整備について

### ●委員会提言

#### 【税負担を最大限抑えられる自立性の高い提案を募ること】

西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備基本計画（素案）では、再整備の基本的な考え方として、「市民の誰もが快適で安全にスポーツに親しめ、トップアスリートの試合が観戦でき、また緑の中で子供が遊び、多様な世代が憩い賑わう地域交流の場になる環境を整備する。さらに、地域防災拠点・避難所の機能を総合的に備える施設整備を行う。」とし、非常に幅広い機能を持たせることになっている。

基本計画については、この考え方をもとに、市民の健康に寄与し、コンパクトで税負担を最大限抑えられる「稼げる施設」となるような事業の提案が期待できる内容とされたい。

### ●各委員からの提言

（田中正剛）

今回視察した体育館は、富山駅から徒歩10分となっているが、実際に歩いてみると、約7分で到着し、駅から少し歩けば施設が見えてくるため近く感じた。一方、西宮市の新体育館の建設予定地は、JR西宮から徒歩約16分、阪急西宮北口から徒歩約17分と遠く感じる。民間の提案を募る際に、市外からのアクセスについての工夫は重視するべきである。

興行利用を想定するのであれば、アリーナは正方形が好ましいとのことである。現在の利用状況やニーズ、40年後の人口予測を勘案すれば、延床面積は現在の基本計画案で進めざるを得ないが、PFIで事業を実施する限りは、単なる延べ払い事業とならないよう、民間のノウハウを最大限活用しなければならない。よって、経済産業省とスポーツ庁が策定した「スタジアム・アリーナ運営・管理計画検討ガイドライン」に沿って整備後の管理・運営を想定し、メインアリーナとサブアリーナの面積配分や形状等についても民間事業者の提案を最大限受け入れるべきと考える。そして、稼げる施設となり、その分を市民スポーツの推進に還元できるような提案を期待したい。